

はばたき

橋北小学校
学校だより
No.19 (学調特別号)
H29. 10.11

4月に行われた全国学力・学習状況調査（6年生対象）について、本校の子どもたちの学力の傾向と特徴、並びに課題とその改善策等についてお知らせします。

① 学力調査にみられる傾向や特徴

調査結果をもとにして、各教科・項目のプラス面や課題となる面で顕著なものをあげました。

② 学習や生活の状況（児童質問紙回答から）

学習状況や活動の様子の結果をもとに、日々の学習課題の改善・克服のためにどのようにしていく必要があるのかをあげました。

調査の結果から、個々の児童のどこに課題があるのかをしっかりととらえて、今後の取組を進めることが何よりも大切であると考えております。このことを踏まえながら本校では、どういふことをめざして頑張ればよいのかめあてを明確にし、「わかった」「できた」などの声が聞こえるような授業づくりに努めてまいります。また、子どもの学力は、学校での授業はもちろんですが、ご家庭での学習が相まってこそより一層向上します。ご協力をお願いいたします。

なお、この調査によって測定できるのは「学力の一部」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。



① 学力調査にみられる傾向や特徴（○プラス面 ●課題となる面）

【国語】

全体的な傾向

「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の2領域においては、知識・活用ともに全国平均を上回る結果となりました。特に、「読むこと」の領域については、活用する力が全国平均よりかなり高く、学力の定着がみられました。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の2領域においても、知識はほぼ全国並みでしたが、活用については、全国平均よりかなり高い結果となりました。

問題形式的にみても、選択式、短答式、記述式のいずれも全国よりかなり高い結果となり、どのような解答形式を求められても対応できる力がついてきていることがわかります。ただ、無回答率が低い中で、記述問題については無回答率が全国に比べて若干高い傾向があります。

具体的な特徴



○国語への意欲・関心・態度は、全国と比べてかなり高いです。

○学習して得た知識を活用する力は全国平均を大きく上回っています。

○目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えて書いたり、話したりすることが全国と比べてよくできます。また、自分の考えについて理由を明確にしてまとめることもよくできます。

○物語文では、具体的な叙述をもとに、登場人物の相互関係や心情、場面描写をとらえることができます。

●俳句の情景をとらえたり、ことわざの意味を理解して活用したりする力に課題がみられます。

【学校では】

- ☆漢字の定着や話す・聞く力をつけるため、引き続き朝の学習（さわやかタイム）の取り組みをすすめるとともに、児童の実態や学習単元に合った内容の工夫を心がけます。
- ☆ペアやグループでの話し合い活動を通して、友だちの意見を自分の考えと比べながら聴いたり、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫したりする力をつけます。
- ☆説明的文章で身に付けた力を、算数で解き方を説明する、理科の観察や実験の結果をまとめる、社会科で調べたことを整理してまとめるなど、他教科においても活用する学習を積極的に取り入れます。
- ☆文章の構成を意識した文章を書く力を育てます。

【ご家庭でも】

- ☆お子様のノートなどをみていただき、これまでに学んだ漢字が使われているかを時々気にしてください。
- ☆駅名や街の看板など、ローマ字のものを読んだり書いたりする活動を取り入れるのもよいかと思えます。
- ☆学習した後は、やったところを見直す習慣がつけられるようお声かけください。

【算数】

全体的な特徴

知識では、「量と測定」の領域においては、全国平均より上回っており、「図形」「数量関係」の2領域においては、ほぼ全国並みでした。しかし、「量と計算」では、全国よりやや低い結果となりました。

活用では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の3領域ともに全国を上回りました。なかでも「量と測定」では、全国よりかなり高い結果となりました。



具体的な特徴

- 資料を二次元表（二つの観点からまとめた表）に分類し整理することは、全国と比べてよくできています。
- 商を分数で表したり、2つの数の最小公倍数を求めたりすることは、全国と比べてよくできています。
- 仮の平均を用いた考えを解釈し、平均を求めることができたり、2つの数量の関係を捉えたりすることは、全国と比べてよくできています。
- 自分の考えを、的確な言葉を使ってわかりやすく記述することができます。
- 単純な計算ミスがみられます。
- 身近なものに置き換えた割合を基に、比較量を判断したり、その理由を記述したりする力に弱さがみられます。

【学校では】

- ☆四則計算の定着をめざして、計算プリントやドリル学習を取り入れ、児童のつまずきに合わせ、アドバイスをしていきます。
- ☆日常生活の様々な場面で使われている割合を意識させることにより、割合に対する理解を深めます。そして、実際に身の周りにある基準量、比較量、割合の関係を捉える活動を通して、問題を解くときに日常の場面を想起して、解決できるようにしていきます。
- ☆分度器やコンパスなどの用具を日常生活の中でも使う場面を多く設定し、正確に速く問題を解けるように復習していきます。

【ご家庭でも】

- ☆日常生活の中で、買い物、同じ数ずつ分ける、何倍にする、割合など、算数で学習したことを活用する場面がたくさんあります。生活の中に「算数」が使われていることに気づかせてあげてください。

② 学習や生活の状況（全国学力・学習状況調査の児童質問紙回答から）

学習について

- 「国語の勉強が好き」と答えた児童は65%程でしたが、「国語の勉強が大切である」と思っている児童は、100%に上りました。また、「国語の学習は将来役に立つ」と考えている児童は90%を超えています。
- 普段の「読書をする時間」の割合は、全国に比べて高いです。ただ、ニュースはテレビやインターネットで知ることが多く、新聞を読む児童は10%ほどで、全国に比べて低いです。新聞をとっている家庭が減っていることもあると思いますが、学校でも新聞を読む経験ができるよう、さらに機会の充実を進めていきたいと考えています。



○算数の勉強が「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた児童は70%弱でした。国語と同様に「算数の勉強は大切である」と答えた児童は100%、「算数の勉強は将来役に立つ」と答えた児童は90%を超えています。算数の学習理解度は9割を超えています。さらに、「解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法はないか考える」の項目において、当てはまると答えた児童が90%を超えています。現状に満足せずに、さらに高い目標に向かって取り組む姿勢が感じられます。

- 「授業で学んだことをほかの学習や普段の生活に生かしている」という児童は100%に及び、学んだことをつなぎ合わせて生活の中で活用しようとする姿がみられます。
- 「先生に認められている」「先生は分かるまで教えてくれる」等の割合が非常に高く、教師とのつながりの強さがみられました。
- 国語の内容の理解度については100%と高くなっていますが、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする学習」や「理由をはっきりとさせて考えを書く」学習は75%となっており、難しさを感じていることがわかります。
- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思う」と答えている児童は60%を超えており、限られた文字数の中で文章をまとめることに自信がない様子が見られます。
- 「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが難しい」と答えた児童は、約40%でした。

- ☆自分の考えを、相手を意識して話したり、文章に書いたりすることに抵抗がある児童が多く見られます。そこで、話し合い活動の時間を確保し、友だちの意見を聞くことで自分の考えのまとめ方のヒントを得たり、自分の考えを広めたり深めたりした経験を積み重ねることで、自信を持たせていきたいと思えます。
- ☆国語の学習に限らず、字数を設定した中で、自分の考えをわかりやすくまとめる活動を取り入れていきます。

自分自身について

- 「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」と答えた児童は100%でした。
- 「自分によいところがある」と答えた児童が97%にのぼり、自尊感情の高さがみられます。
- 「難しいことでも失敗をおそれず挑戦している」「将来の夢や希望を持っている」と答えた児童が90%を超えており、将来に向けて前向きな姿勢が見られます。

- ☆自分や友だちの「良さ」を認め合う機会を増やすことで、自分のことを好きになったり、自分自身を認めたりする気持ちを育てていきます。そして、将来への夢や希望が持てるよう、さらにキャリア教育をすすめていきたいと思えます。

家庭学習について

- 「学校の宿題をしている」と答えた児童は90%を超えています。そのうち、「予習をしている」と答えた児童は47%、「復習をしている」と答えた児童は66%います。どちらも全国と比べて高い割合でした。
- 「学校の授業時間以外に普段（月～金）に1日どのくらい勉強するか」については、「1時間から2時間」と答えた児童が一番多く、約60%でした。全国と比べて高いです。
- 「休みの日の勉強時間」については、「平日と変わらない」、「平日より少ない」と答えた児童が多く、全国と比べると休日の勉強時間は少ないことがわかります。

☆自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる児童は多いようです。家庭学習の内容の充実に努めながら、学習時間も増やしていけるとよいのではないのでしょうか。
☆さらに力を伸ばしていくためには、学校で出された課題にとどまらず、自分で学習課題を選んで学習をすすめる自主勉強に積極的に取り組んでほしいと思います。

生活について

- ほとんどの児童が、「毎日朝食を食べている」と答えています。また、毎日同じくらいの時刻に寝たり、起きたりしている児童が約90%おり、多くの児童が規則正しい生活を送れています。
- 「テレビやDVDを見る時間」は、2時間から3時間の児童が一番多く、約30%です。3時間以上になると、視聴する児童の割合は、全国と比べて低くなっています。「ゲームをする時間」は、2時間から3時間が一番多く25%で、全国と比べると低くなっています。
- 携帯電話やスマートフォンを持っていない児童は半数近くおり、持っている児童も、全員が「家の人と約束したことを守って使っている」と答えています。
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある」と答えた児童の割合が、全国に比べてかなり低いです。



☆テレビやDVDの視聴時間やゲームをする時間は、個別で見ると全国に比べ少ないですが、それらを合わせた時間は一日の中でかなりの割合を占めています。週に1回ノーテレビ・ノーゲーム・ノー携帯デーを設定し、読書やお手伝いなどの時間を増やすのもよいのではないのでしょうか。

☆ボランティア活動においては、地域行事などを通して積極的に地域交流を進めていけるように、地域との連携を図ります。

